

第五章 新規事業展開における都市選択

1. 調査の目的と内容

(1) 目的

前章の直接的機能及び間接的機能にもとづいた分析結果から、直接的機能については、「規模」「公的セクターのやる気」「工業都市としての集積」の3つの主成分に集約され、一方、間接的機能については、「安全・安心・居住」「社会基盤」「都市機能、都市の魅力・都市の多様性・許容力」の3つの主成分に集約されることが分かった。また、都市の特徴や類似性を調査対象の各都市の主成分の得点等を分析することにより、明らかにすることができた。

そこで、ここでは企業が新たに事業展開を図ろうとするとき、どういった機能や要素を重視するのか、また、どういった機能や要素を備えた都市を選択するのかを明らかにしたい。これまで直接的機能と関節的機能をそれぞれ別々に評価することはあっても、これらを同時に評価した事例はなかった。どちらかといえば、大学の集積や産業支援基盤の整備といった直接的機能の調査分析が優先され、間接的機能はその必要性を示唆する程度のものが多かった。

(2) 調査内容

① 評価基準

選択要因となる評価基準は、前章で明らかになった6つの主成分をもとに、機能及び要素を5つに分けることにした。下表において、1) 2)が間接的機能を、3)～5)が直接的機能を代表している。

1) 『都市基盤』

- ・[安全] 犯罪や交通事故、火災が少ない
- ・[安心] 病院や保育所などが充足している
- ・[居住] 住居を比較的便利な場所に、安く確保することができる
- ・[社会基盤] 上下水道や公園、道路などが整備されている

2) 『都市の多様性』

- ・[都市機能] 銀行の本店や広告・放送業、デパートなどが集積している
- ・[都市の魅力] 美術館、コンサートホール、進学校などが充実している
- ・[都市の許容力] 音楽家やデザイナーなどの多様な職業の人や、外国人が多い

3) 『研究基盤』

- ・大学などの研究機関が集積している

4) 『企業集積』

- ・製造業、サービス業、卸売業などの集積がある
(域内にそれなりの需要がある)
(域内で部品の調達や外注加工などが比較的容易にできる)

5) 『行政支援』

- ・行政が積極的に支援してくれる
(例、補助金・融資、産学連携の仲介、コンサルティングなど)

②選択対象都市

選択対象となる都市は、類似性に配慮して、3 つに限定した。

1) 『福岡』

- ・人口 150 万人程度の大都市で、地域ブロックの中核となっている
- ・企業の支店や行政機関が集積し、人・モノ・資金・情報が集まってくる
- ・他に京都、札幌、神戸、広島などの都市がある

2) 『北九州』

- ・県庁所在地ではないが、産業都市として確固たる地位を確保している
- ・人口規模は 50～100 万人である
- ・他に川崎、浜松、姫路、東大阪などの都市がある

3) 『熊本・大分・長崎』

- ・県庁所在地であり、人口規模は概ね 50 万人の都市である
- ・福岡市がミニ東京なら、これらの都市はミニ福岡といえる
- ・他に岡山、鹿児島、金沢などの都市がある

③企業タイプ

企業タイプは、業態に配慮して、研究開発型企業を中心に、4 つに分けた。

1) 『基盤技術型企业』

切削や溶接、製缶などにより、部品や製品の加工・組立を行うモノづくり企業

2) 『研究開発型企业』

半導体や新素材、バイオなどの先端的な分野について、研究開発を主として行う企業

3) 『ソフトウェア開発企業』

ソフトウェアの開発を行う企業

(例、ゲームソフト、販売/製造支援ソフト、会計ソフトなど)

4) 『イノベーション支援企業』

イノベーションを支援する企業

(例、設計受託、人材派遣、弁理士等のコンサルタントなど)

2. 調査の方法

(1)一対比較による階層分析

今回の問題は、“新規事業を展開する適地として、福岡、北九州、熊本・大分・長崎の 3 つのタイプの都市があり、都市基盤、都市の多様性、研究基盤、企業集積、行政支援の 5 つの評価基準の観点から、いずれかの都市を選定したい”といった意思決定問題であり、図 5-1 のような階層構造で表すことができる。

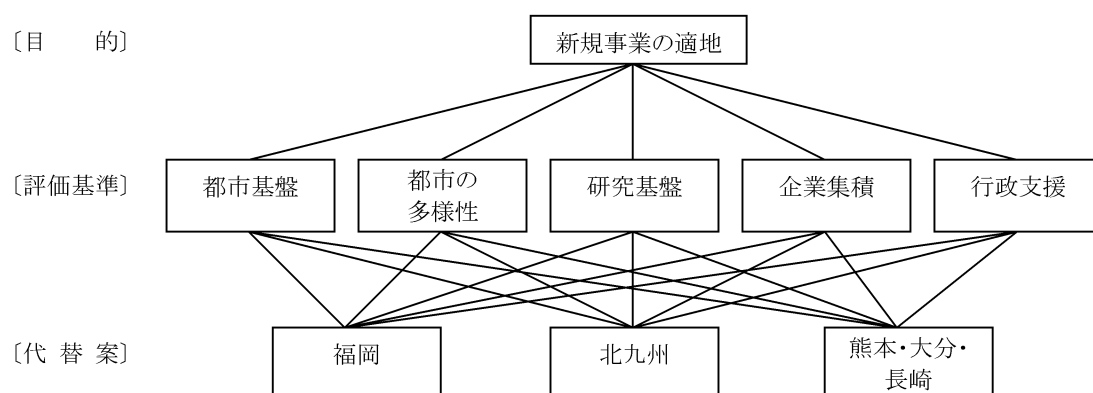


図 5-1 新規事業展開の適地選びの階層図

このような階層構造をもつ多基準決定問題を分析する手法としては、階層分析法 (Analytic Hierarchy Process: AHP) ⁽¹⁾ が知られており、この手法を用いて調査を行い、分析することとした。

この手法の特徴は、目的－評価基準－代替案といった階層構造で問題を表すこと、基準や代替案を評価するときに数値による直接の絶対評価ではなく、2 つの項目を取り出して、それらを相対的に比べ、間接的に評価するという一対比較法を用いること、固有値を用いて各項目のプライオリティ (重み) を求めることにあるといわれている。ただし、特徴の一つである一対比較法は、その回答に不整合がある場合 ⁽²⁾ があり、そのような回答から重みや評価値を求めても信頼性は低いいため、整合度 (Consistency Index: CI) ⁽³⁾ を求め、計算結果の信頼性を評価するとともに、閾値を定め、閾値を満足するように不整合な回答もしくは回答者を除外する手続きをとる必要である。なお、一般に $CI \leq 0.10 \sim 0.15$ ならば、整合性は確保されているとされている。

今回用いた AHP による調査票を pp101～102 に示す。

(2) コンジョイント分析

この問題は、“都市を一つの商品に見たて、それを構成する機能・要素を都市基盤から行政支援までの 5 つの評価基準で表し、どの組み合わせの都市 (商品) がよいか” という組み合わせ最適化問題として表すことができ、表 5-1 のように整理することができる。

表 5-1 評価基準の組み合わせ

機能・要素 (評価基準)	水準	
	肯定的	否定的
都市基盤	整備されている	あまり整備されていない
都市の多様性	多様である	多様でない
研究基盤	充実している	あまり充実していない
企業集積	十分な集積がある	あまり集積がない
行政支援	十分な支援がある	あまり支援がない

このような最適な組み合わせを求める手法としては、製品設計や商品改善企画などで広く用いられているコンジョイント分析がポピュラーであり、前述の AHP と併せて、この手法を用いて調査及び分析を行うこととした。

コンジョイント分析の特徴は、幾つかの条件(評価基準)がある場合、判断に大きな影響を与える項目と判断にほとんど影響がない項目を同時に勘案して処理することができるため、回答者の実際の思考パターンに近い分析が可能である。一般的にどれも重要ということは実現性において問題があり、また平均値で代表させることはむしろ解釈を誤らせてしまう可能性がある。当分析は、条件間の相対的重要度で表記することができるため、どこが重要視されているのか、またどの組み合わせが最も良いのかを容易に把握することができる。

コンジョイント分析を実施するにあたっては、直交表を用いて、表 5-1 で示した水準を組み合わせたカードを作成し、順位付け方式や得点方式、一対比較方式、複数選択方式などにより評価する。ここでは回答者の回答し易さに配慮して、順位付け方式を採用した。なお、今回用いた調査票(カード)を p103 に示す。

3. 調査の結果

(1) 調査の実施要領

今回の調査は、イノベーションに取り組む企業を対象にすることから、福岡県、熊本県、大分県、長崎県のインキュベータ入居企業、北九州市の若手経営者の会⁽⁴⁾及び 2006 年度の北九州地域の研究開発助成採択企業に対して調査を行った。

- 調査実施期間: 2006 年 10 月 20 日(発送)～11 月 14 日(受取日限)
- 方法: 郵送による
- アンケート発送数: 276、回答数 81(回収率=29.0%)

回答企業の業種の内訳は、図 5-2 のとおりであり、ここでは基盤技術型企业、研究開発型企业、ソフトウェア開発企業、イノベーション支援企業、合計 66 件を対象に分析を行うこととした。

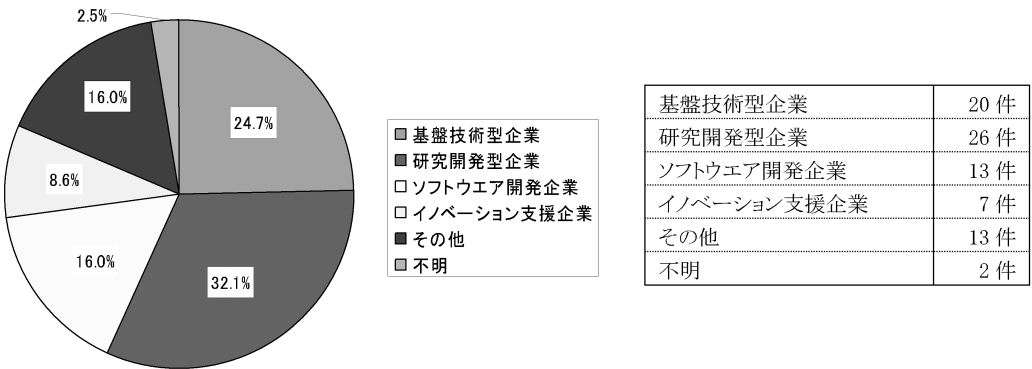


図 5-2 回答企業の業種

また、回答企業の創業年数を見てみると、5 年未満の新しい企業と 30 年以上の歴史のある企業が多く、両者で約75%を占有する。なお、企業タイプとの関係で見ると、基盤技術型企業の 70% は創業 30 年以上の企業であり、一方、研究開発型企业、ソフトウェア開発企業、イノベーション支援企業においては、約 2/3 が創業 5 年未満の新しい企業であった。

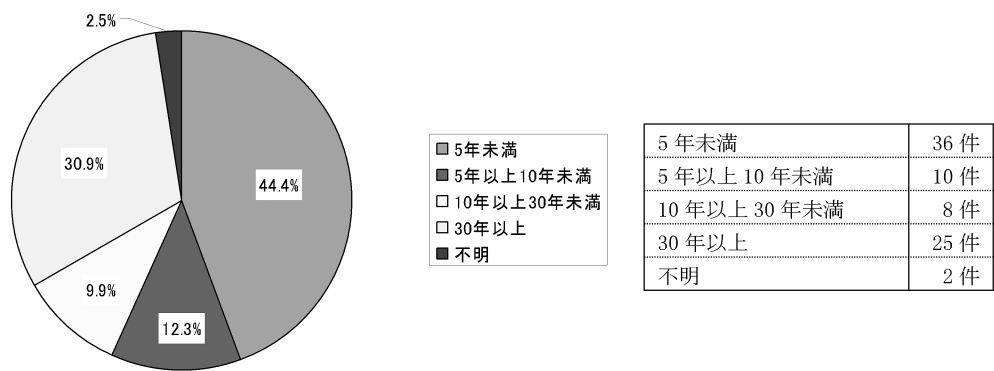


図 5-3 回答企業の業種

さらに、回答企業の事業所の所在地を見てみると、北九州市に所在する企業が約 2/3 を占有し、一方、長崎県の企業はゼロであった。企業タイプとの関係で見ると、サービス業においてのみ、福岡市所在の企業が多かった(42.9%)が、それ以外の業種については、多くが北九州市に所在する企業であった(平均 70% 占有)。

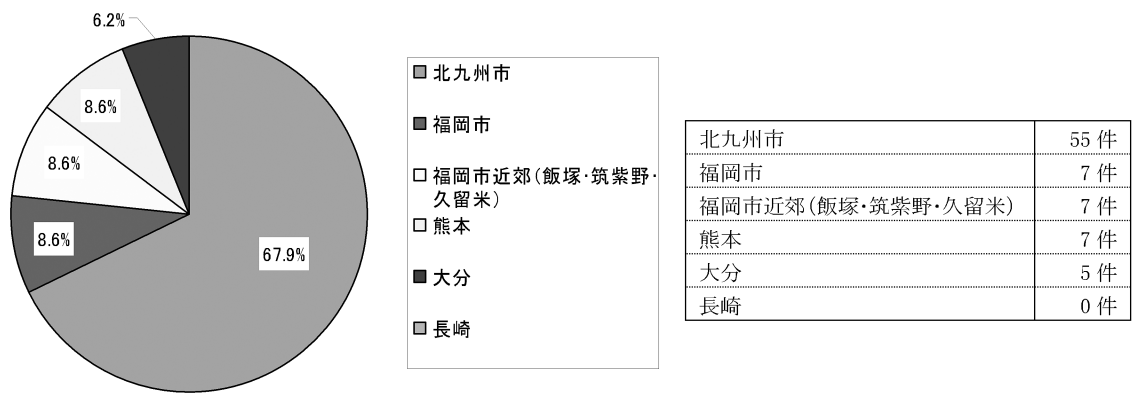


図 5-4 回答企業の所在地

(2)一対比較による階層分析の結果

①分析精度

ここでは整合度(Consistency Index:CI)を 0.15 に設定し、この閾値 0.15 を超える回答を除外することで、データの整合性を確保することとした。

②評価基準の重要度

a. 回答者全体(N=66)

都市基盤から行政支援までの 5 つの評価基準に対して分析した結果、回答者全体(N=66)による重要度は、企業集積が最も高く、以下、行政支援、研究基盤、都市基盤、都市の多様性と続く。なお、上位 3 者と下位 2 者において差がある。

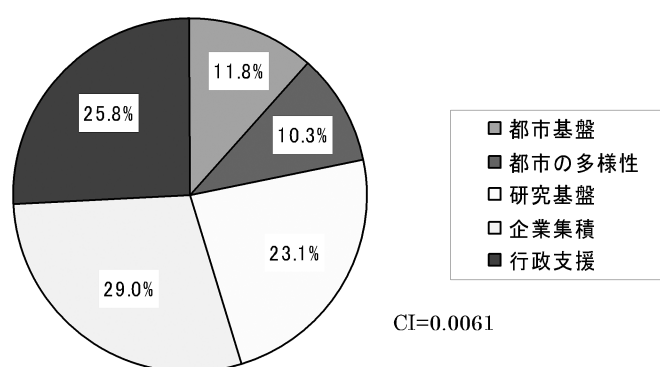


図 5-5 回答者全体(N=66)による重要度

b. 企業タイプ

〔基盤技術型企业(n=20)〕

基盤技術型企业においては、企業集積の重要度が高く、以下、行政支援、研究基盤、都市基盤、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、企業集積の重要度が増しており(6.8 ポイント、約 1.2 倍)、研究基盤の重要度が大幅に減少している(▲5.7 ポイント、0.75 倍)。

基盤技術型企业(n=20)のうち、8 割は北九州市所在の企業であることから、それら企業(n=16)について見てみると、大きな変化はないものの、都市基盤と研究基盤の重要度がやや増加し、一方、都市の多様性の重要度がやや減少している(p104)。

さらに、基盤技術型企业のうち、7 割を占有する創業 30 年以上の企業(n=14)について見てみると、企業集積の重要度がさらに増え、40%に迫り、また研究基盤の重要度がやや増加する一方、行政支援の重要度がやや減少している。これは業暦が永くなり、経営が安定しているために、行政支援を必要性が減少しているものと考えられる(p104)。

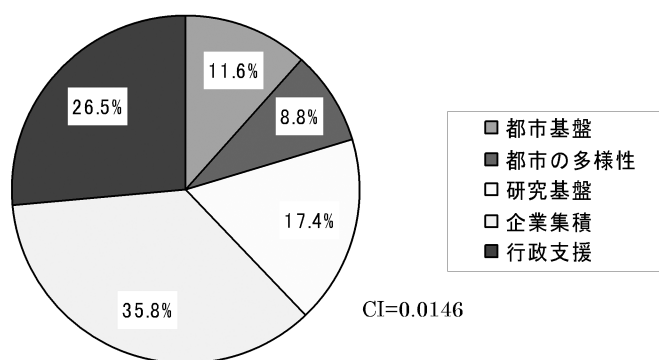


図 5-6 基盤技術型企业 (n=20) にみる重要度

〔研究開発型企业 (n=26)〕

研究開発型企业においては、研究基盤と企業集積の重要度が高く、以下、行政支援、都市基盤、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、研究基盤の重要度が増えており(5.3 ポイント、約 1.2 倍)、一方、企業集積と行政支援の重要度がやや減少している(約 2.5 ポイント)。

研究開発型企业 (n=26) のうち、6 割を占有する北九州市所在の企業 (n=16) について見てみると、研究基盤の重要度はさらに増え、30% を超える。これら北九州市所在の企業のうち、11 社 (約 70%) は学術研究都市に立地する企業であることから、これまでの学術研究都市の実績や関心の高さを表しているものと考えられる。一方、都市の多様性の重要度が低くなっている (p104)。

さらに、研究開発型企业のうち、創業 5 年未満の新しい企業が 6 割 (16 社) 占有しており、これら企業について見てみると、前述の研究開発型企业全体と同様の傾向を示す (p104)。

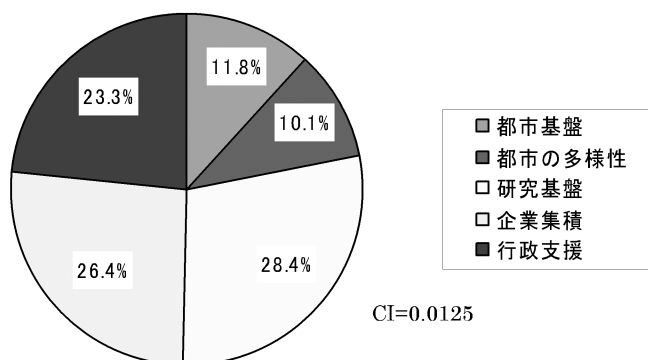


図 5-7 研究開発型企业 (n=26) にみる重要度

〔ソフトウェア開発型企业 (n=13)〕

ソフトウェア開発型企业においては、行政支援の重要度が高く、以下、研究基盤、企業集積、都市基盤、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、行政支援の重要度が著しく増えて (10.1 ポイント、約 1.4 倍) いる一方、企業集積の重要度が大幅に減少している (▲9.6 ポイント、0.7 倍)。これはソフトウェア企業の経営基盤が十分ではないために行政機関による支援が必要であることを示唆している。

ソフトウェア開発企業(n=13)のうち、7割は北九州市に立地する企業であることから、それら企業(n=9)について見てみると、ソフトウェア開発企業全体に比べて、都市基盤と都市の多様性の重要度が増える一方、行政支援の重要度が減少している(p104)。

さらに、ソフトウェア開発企業のうち、6割を占有する創業5年未満の企業(n=8)について見てみると、同様にソフトウェア開発企業全体に比べて、研究基盤の重要度が著しく増加する(+6.3ポイント、約1.3倍)一方、行政支援と企業集積の重要度をやや減少させている(p104)。

なお、いずれのケースにおいても、行政支援の重要度が一番高いのに変わりはなく、30%を超える。

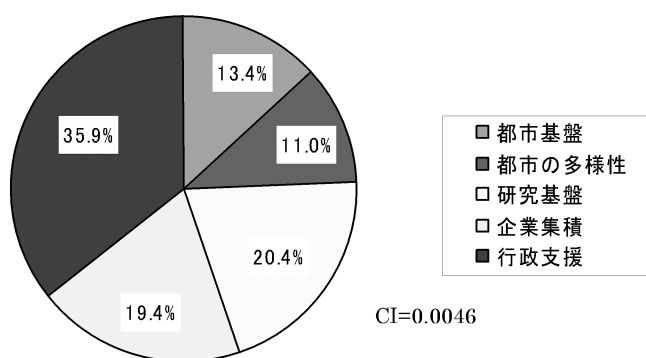


図 5-8 ソフトウェア開発企業(n=13)にみる重要度

〔イノベーション支援企業(n=7)〕

イノベーション支援企業においては、企業集積の重要度が高く、以下、行政支援、研究基盤、都市の多様性、都市基盤と続く。回答者全体の結果に比べて、企業集積の重要度が増えており(10.6ポイント、約1.3倍)、一方、行政支援、都市基盤、研究基盤の順位で重要度を減少させている。これはイノベーション支援企業が、対事業所サービス業であることによるものと考えられる。また、このイノベーション支援企業においてはじめて、都市の多様性の重要度が都市基盤の重要度を上回った。

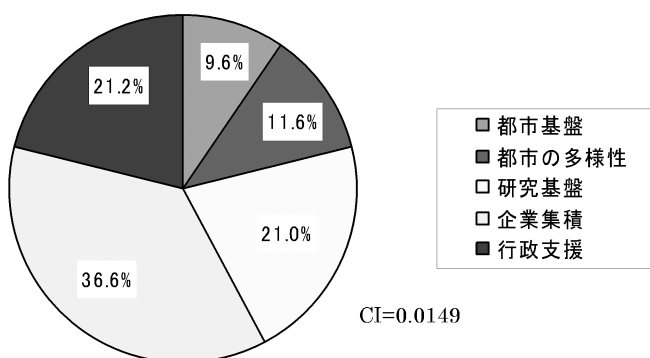


図 5-9 イノベーション支援企業(n=7)にみる重要度

c. 評価基準と都市選択

〔都市基盤〕

都市基盤の観点からは、新規事業の適地として、「福岡」が選択され、以下、「北九州」、「熊本・大分・長崎」と続く。

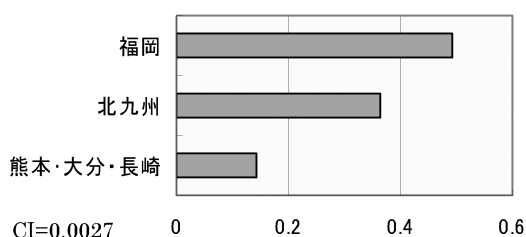


図 5-10 都市基盤における都市選択

これを企業タイプ別に見てみると、基盤技術型企業 (n=20) においては、福岡と北九州の順位が逆転し、北九州＞福岡＞熊本・大分・長崎となる。とくに北九州市所在の基盤技術型企業 (n=16) において、北九州の優位性がより顕著となって表れている。一方、研究開発型企業 (n=26) においては、福岡の優位性が高まる。なお、北九州市所在の研究開発型企業 (n=16) において、3 都市の順位は変わらないものの、北九州を選択する企業が多くなっている。ソフトウェア開発企業 (n=13) においては、北九州市所在の企業 (n=9) において、前の基盤技術型企業及び研究開発型企業とは反対に、福岡を選択する企業が多くなっている。イノベーション支援企業 (n=7) においては、研究開発型企業と同様に、福岡の優位性が高まり、下位 2 都市との差がより顕著になっている。

企業の所在地で見えてみると、北九州市所在の企業においては、北九州を選択する企業が多く、福岡を選択する企業を若干上回る。

以上、計算結果及びグラフの詳細を p105 に示す。

〔都市の多様性〕

都市の多様性の観点からは、新規事業の適地として、「福岡」が選択され、以下、「北九州」、「熊本・大分・長崎」と続く。前述の都市基盤と比べて、3 都市の差がやや顕著になっている。

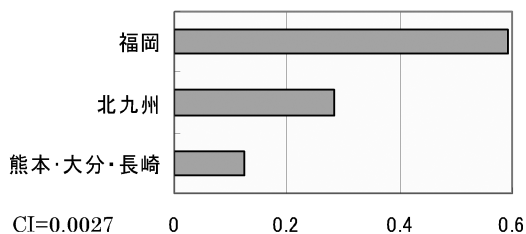


図 5-11 都市の多様性における都市選択

これを企業タイプ別に見てみると、基盤技術型企业(n=20)においては、福岡と北九州の差が縮まっている。これは北九州市所在の基盤技術型企业(n=16)が、北九州を選択するケースが多いことによるものと考えられる。一方、研究開発型企业(n=26)においては、福岡の優位性がより高まる。とくに創業5年未満の新しい企業(n=16)において顕著であり、北九州市所在の研究開発型企业(n=16)においても同様の傾向を示す。ソフトウェア開発企業(n=13)においては、創業5年未満の企業の企業(n=9)において、研究開発型企业と同様に、福岡の優位性がより高まっている。イノベーション支援企業(n=7)においては、福岡の優位性が高まっており、下位2都市との差が拡大している。

企業の所在地で見えてみると、福岡市所在の企業において、福岡の優位性がより顕著に表れている。以上、計算結果及びグラフの詳細をp106に示す。

〔研究基盤〕

研究基盤の観点からは、新規事業の適地として、「福岡」が選択され、以下、「北九州」、「熊本・大分・長崎」と続く。前述の都市基盤及び都市の多様性に比べて、福岡と北九州の差があまりないところが特徴的である。

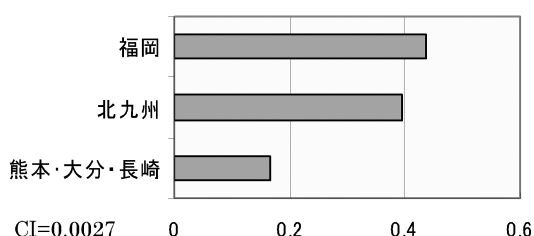


図 5-12 研究基盤における都市選択

これを企業タイプ別に見てみると、基盤技術型企业(n=20)においては、福岡と北九州の順位が逆転し、北九州>福岡>熊本・大分・長崎となる。とくに北九州市所在の基盤技術型企业(n=16)において、北九州の優位性がより顕著となって表れている。一方、研究開発型企业(n=26)においては、福岡の優位性がやや高まっている。なお、北九州市所在の研究開発型企业(n=16)において、福岡と北九州の順位が逆転し、北九州が若干優位となっている。なお、このことは前述のとおり、これら北九州市所在の企業のうち、11社(約70%)が学術研究都市に立地する企業であることから、これまでの学術研究都市の実績及び関心の高さを表しているものと考えられる。ソフトウェア開発企業(n=13)においては、3つの都市の差異が小さくなっている。とくに創業5年未満の企業(n=9)においては、3つの都市の差異がほとんどない。イノベーション支援企業(n=7)においては、福岡が優位であり、また福岡と北九州の上位2都市と熊本・大分・長崎の差が拡大している。

企業の所在地で見えてみると、北九州市所在の企業においては、北九州を選択する企業が多く、福岡を選択する企業を若干上回る。福岡市所在の企業については、福岡の優位性が高い。

以上、計算結果及びグラフの詳細をp107に示す。

〔企業集積〕

企業集積の観点からは、新規事業の適地として、「福岡」が選択され、以下、「北九州」、「熊本・大分・長崎」と続く。前述の都市基盤及び都市の多様性に比べて、研究基盤ほどではないが、福岡と北九州の差があまりないところが特徴的である。

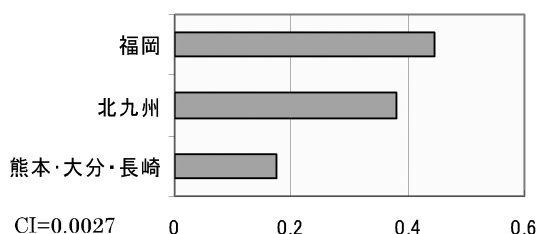


図 5-13 企業集積における都市選択

これを企業タイプ別に見てみると、基盤技術型企业 (n=20) 及び研究開発型企业 (n=26) と同様の傾向を示しており、まず、基盤技術型企业については福岡と北九州の順位が逆転し、北九州 > 福岡 > 熊本・大分・長崎となっている。とくに北九州市所在の基盤技術型企业 (n=16) において、北九州の優位性がより顕著となって表れている。次に研究開発型企业 (n=26) においては、福岡の優位性がやや高まっている。なお、北九州市所在の研究開発型企业 (n=16) において、福岡と北九州はほぼ同値となっている。ソフトウェア開発型企业 (n=13) においては、福岡が優位となっており、イノベーション支援型企业 (n=7) においては、福岡が優位であり、北九州および熊本・大分・長崎との差が拡大している。

企業の所在地で見えてみると、北九州市所在の企業においては、北九州を選択する企業が多く、福岡を選択する企業を若干上回る。福岡市所在の企業については、福岡の優位性が高い。

以上、計算結果及びグラフの詳細を p108 に示す。

〔総合評価〕

以上の 4 つの評価基準による都市選択の結果をもとに、新規事業の適地としての 3 つの都市の総合評価を行ってみると、福岡、北九州、熊本・大分・長崎の順位になる。福岡が北九州に対して優位な理由は、主として都市基盤や都市の多様性といった間接的機能の差によるところが大きい。熊本・大分・長崎は、すべての評価基準において、上位 2 都市に劣っている。

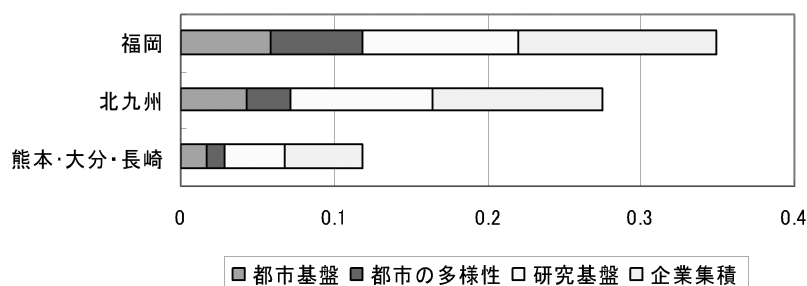


図 5-14 都市の総合評価(全体、N=66)

次に、これを企業タイプ別に見てみると、基盤技術型企业(n=20)においては、福岡と北九州の順位が逆転し、北九州>福岡>熊本・大分・長崎となる。とくに北九州市所在の基盤技術型企业(n=16)において、北九州の優位性がより顕著となって表れている。これは企業集積、都市基盤、研究基盤において、北九州を高く評価しているためである。なお、都市の多様性については、北九州市所在の企業といえども、福岡を評価している。

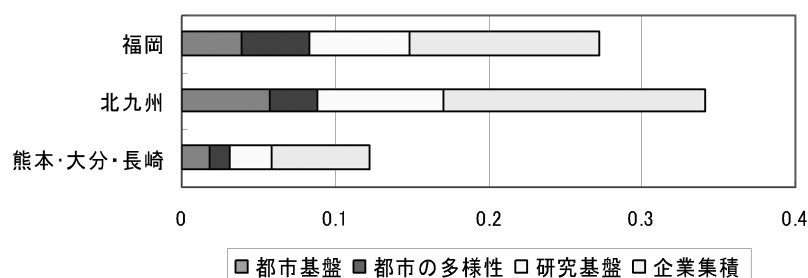


図 5-15 基盤技術型企业による都市の総合評価(n=20)

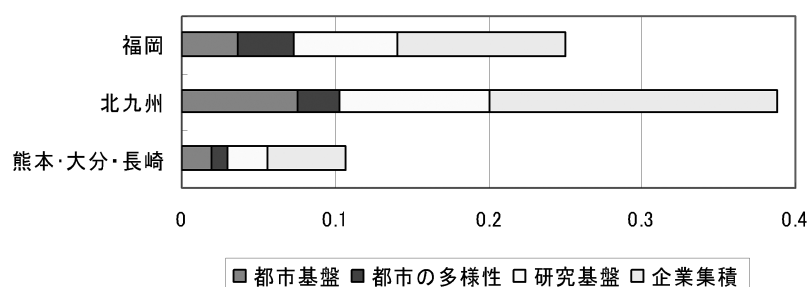


図 5-16 北九州市所在の基盤技術型企业による都市の総合評価(n=16)

研究開発型企业(n=26)については、福岡、北九州、熊本・大分・長崎の順位になっており、福岡はすべての評価基準において、北九州を上回っている。ただし、北九州市所在の研究開発型企业(n=16)においては、北九州の研究基盤を高く評価し、企業集積についても同等に評価していることから、福岡と北九州の差は小さい。

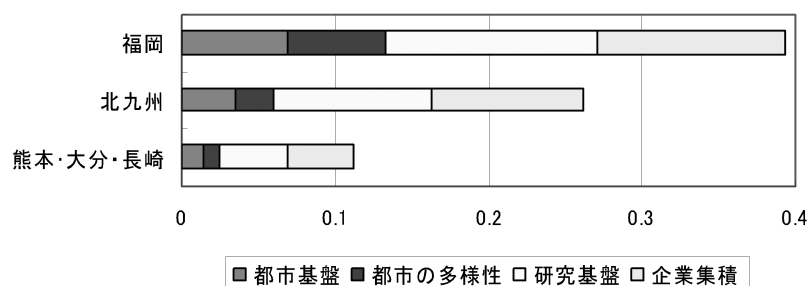


図 5-17 研究開発型企业による都市の総合評価(n=26)

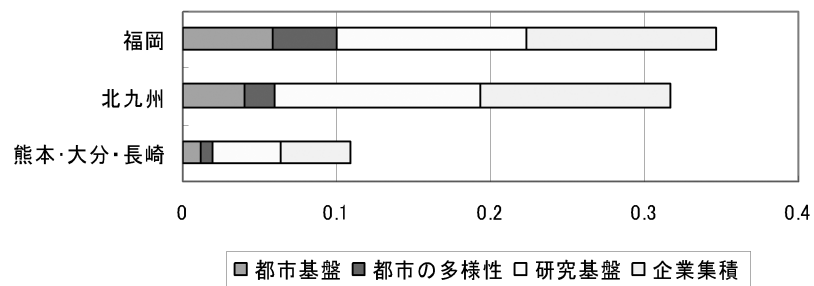


図 5-18 北九州市所在の研究開発型企業による都市の総合評価 (n=16)

ソフトウェア開発企業 (n=13) については、研究開発型企業と同様に、福岡、北九州、熊本・大分・長崎の順位になっており、福岡はすべての評価基準において、北九州を上回っている。なお、企業の所在地や創業年数において、とくに特徴的な傾向は見られない。

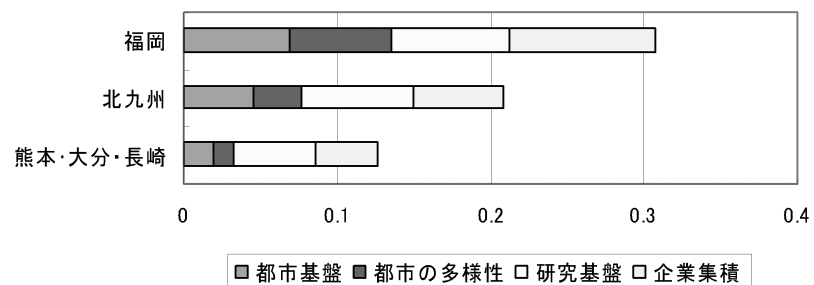


図 5-19 ソフトウェア開発企業による都市の総合評価 (n=13)

イノベーション支援企業 (n=7) については、福岡の優位性がより顕著になっている。とくに都市基盤、都市の多様性、企業集積の 3 つの基準については、北九州の 2 倍以上の評価を得ている。

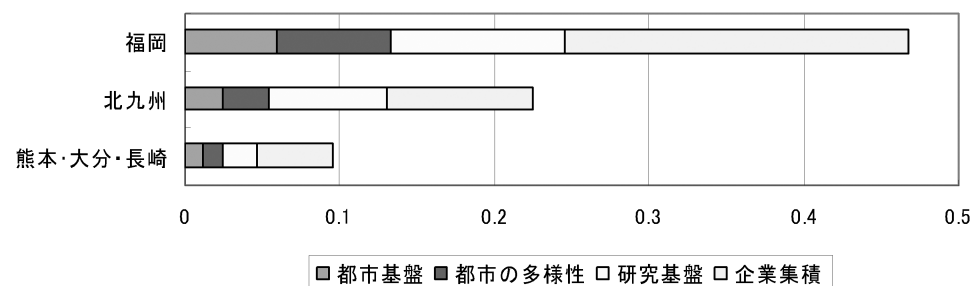


図 5-20 イノベーション支援企業による都市の総合評価 (n=7)

さらに、企業の所在地別に見てみると、北九州市所在の企業(n=43)については、福岡と北九州の順位が逆転し、北九州＞福岡＞熊本・大分・長崎となっている。これは都市の多様性については福岡を評価しているものの、その他の評価基準である企業集積、都市基盤、研究基盤については、北九州を評価していることによるものである。

一方、福岡市所在の企業について見てみると、福岡の評価が高く、いずれの評価基準も福岡を第一位に評価している。

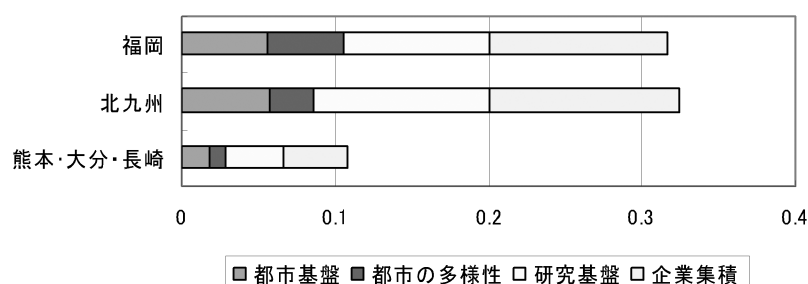


図 5-21 北九州市所在の企業による都市の総合評価(n=43)

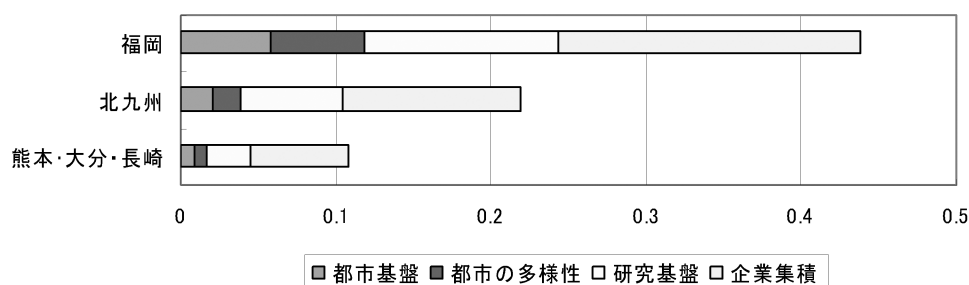


図 5-22 福岡市所在の企業による都市の総合評価(n=8)

なお、p109 に計算結果及びグラフの詳細を示す。

③分析結果のまとめ

評価基準における重要度の分析結果をまとめると表 5-2 のように整理することができる。なお、全体的に都市基盤及び都市の多様性といった間接的機能の重要度が低く出ている。

基盤技術型企業においては、「企業集積」「行政支援」を重視する一方、「都市の多様性」については重要としていない。堅実な業態であることの表れであると考ええる。

研究開発型企業は、「研究基盤」「企業集積」を重視する。

ソフトウェア開発企業は、経営基盤が安定していない等の理由により、「行政支援」を重視する。また、「企業集積」の重要度が他の企業タイプに比べて低く、地域にあまり拘っていないことが分かる。

イノベーション支援企業は、対事業所サービス業でもあるため、「企業集積」を重視する一方、「都市基盤」を重要としていない。

表 5-2 評価基準の重要度のまとめ

	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業集積	行政支援
全体	△	△	○	○	○
基盤技術型企业	△	×	△	◎	○
研究開発型企业	△	△	○	○	○
ソフトウェア開発企业	△	△	○	△	◎
イノベーション支援企业	×	△	○	◎	○

◎≧重要度 30%、○≧同 20%、△≧同 10%、×<同 10%

次に、評価基準における都市選択の分析結果をまとめると表 5-3 のように整理することができる。

基盤技術型企业、とくにその中でも北九州市に所在する企业において、「北九州」を評価するものの、それ以外は「福岡」を高く評価している。

研究基盤において、北九州市に所在する企业が「北九州」を高く評価しているが、これは前述のとおり、学術研究都市のこれまでの実績と期待の高さの表れであると考えられる。また同様に、企業集積において「北九州」を評価しているが、これは基盤技術型企业によるところが大きく、逆にソフトウェア開発企业になると「福岡」を高く評価している。

表 5-3 評価基準における都市選択のまとめ

	総合	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業集積
全体	福岡	福岡	福岡	福岡（北九州）	福岡（北九州）
基盤技術型企业	北九州	北九州	福岡	北九州	北九州
研究開発型企业	福岡	福岡	福岡	福岡（北九州）	福岡（北九州）
ソフトウェア開発企业	福岡	福岡	福岡	福岡（北九州）	福岡
イノベーション支援企业	福岡	福岡	福岡	福岡	福岡
北九州市所在企业	北九州（福岡）	北九州（福岡）	福岡	北九州	北九州（福岡）
福岡市所在企业	福岡	福岡	福岡	福岡	福岡

（ ）内は第 2 位ではあるが、第 1 位と差がないとき

(3)コンジョイント分析の結果

①分析精度

回答者の評価が分かれている場合、相関は弱くなり、コンジョイント分析の結果には信頼性がないとされている。通常、決定係数が0.5未満の場合、分析結果を使用しない方がよいと判断されている。

なお、今回算出された決定係数は0.9980であり、分析精度に問題はないと判断した。

②評価基準の重要度

前節の一対比較のよる階層分析の結果と、分析の内容が重複するが、ここではコンジョイント分析としての結果を示すこととする。

a. 回答者全体(N=66)

都市基盤から行政支援までの5つの評価基準に対して分析した結果、回答者全体(N=66)による重要度は、都市基盤が最も高く、企業集積、研究基盤・行政支援(同値)と続き、都市の多様性が最も低い。

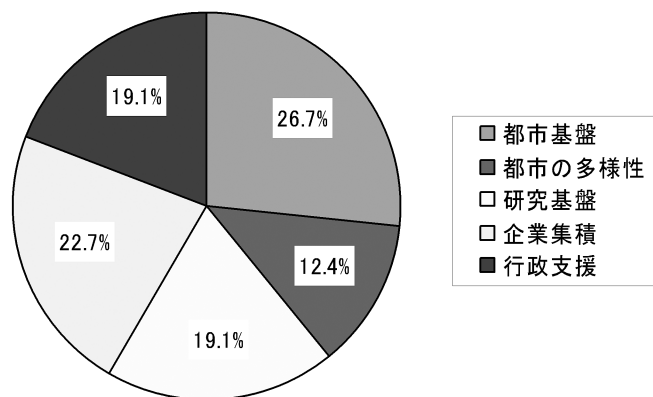


図 5-23 回答者全体(N=66)による重要度

b. 企業タイプ別

〔基盤技術型企业(n=20)〕

基盤技術型企业においては、企業集積の重要度が高く、以下、都市基盤、研究基盤・行政支援(同値)、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、企業集積の重要度が著しく増えて(6.5ポイント、約1.3倍)いる。

基盤技術型企业(n=20)のうち、8割は北九州市所在の企業であることから、それら企業(n=16)について見てみると、企業集積の重要度はさらに増え、30%を超える。また都市基盤や研究基盤の重要度が低くなる(▲約3ポイント)一方、行政支援の重要度が増えている(+約4ポイント)(p112)。

さらに、基盤技術型企业のうち、7割を占有する創業30年以上の企業(n=14)について見てみると、企業集積の重要度はさらに増え、約1/3になる一方、行政支援は半減する。これは業暦が永くなり、経営が安定しているために、行政支援を必要としないものと思われる。なお、創業5年未満の基盤技術型企业においては、行政支援の重要度が1/3を超え、業暦が影響していることが分かる(p112)。

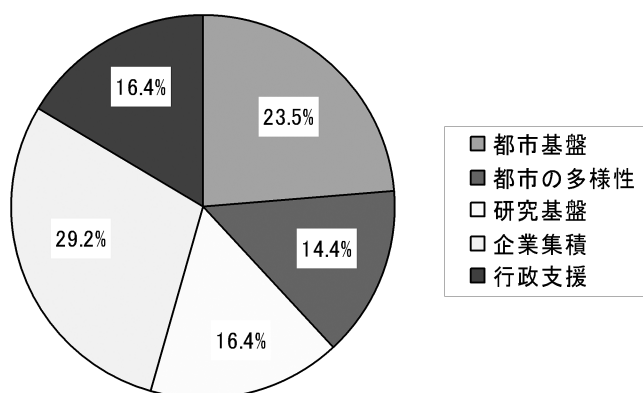


図 5-24 基盤技術型企業(n=20)にみる重要度

〔研究開発型企業(n=26)〕

研究開発型企業においては、都市基盤と研究基盤の重要度が高く、以下、企業集積、行政支援、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、研究基盤の重要度が著しく増えて(6.3 ポイント、約 1.3 倍)おり、一方、企業集積と行政支援の重要度がやや減少している(約 3 ポイント)。

研究開発型企業(n=26)のうち、6 割を占有する北九州市所在の企業(n=16)について見てみると、研究基盤の重要度はさらに増え、30%に迫る。前節同様、これら北九州市所在の企業のうち、11 社(約 70%)は学術研究都市に立地する企業であることから、これまでの学術研究都市の実績と関心の高さを表しているものと考えられる。一方、都市基盤や都市の多様性の重要度が低くなっている(p112)。

さらに、研究開発型企業のうち、創業 5 年未満の新しい企業が 6 割(16 社)占有しており、これら企業について見てみると、前述の北九州市在住の研究開発型企業と同様の傾向を示す。なお、これは創業 5 年未満の北九州市所在の研究開発型企業(11 社)のうち、8 社が学術研究都市に立地するためである(p112)。

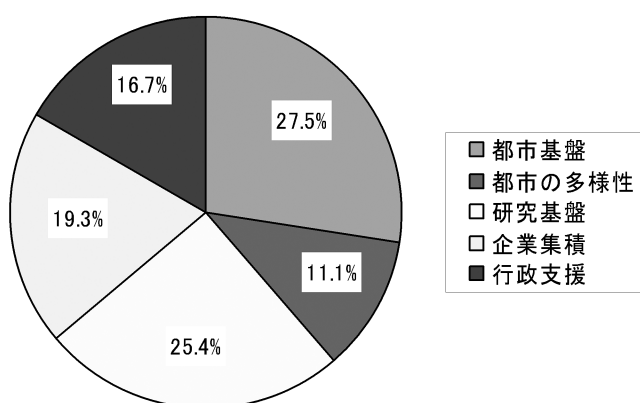


図 5-25 研究開発型企業(n=26)にみる重要度

〔ソフトウェア開発企業(n=13)〕

ソフトウェア開発企業においては、行政支援の重要度が高く、以下、都市基盤、都市の多様性、研究基盤・企業集積と続く。回答者全体の結果に比べて、行政支援の重要度が著しく増えて(12.0 ポイント、約 1.6 倍)おり、また、これまで第 5 位であった都市の多様性が第 3 位に躍進している(+6.4 ポイント、約 1.5 倍)。一方、企業集積の重要度が半減している。これはソフトウェア企業の経営基盤が十分ではないために行政機関の支援が必要であることや、多岐にわたる情報の授受や人に対して直接サービスを提供するものであるために企業の実体よりも多様性や柔軟性を好むことなどによるものと考えられる。

ソフトウェア開発企業(n=13)のうち、7 割は北九州市に立地する企業であることから、それら企業(n=9)について見てみると、ソフトウェア開発企業全体に比べて、都市基盤の重要度が増える(+約 4 ポイント)一方、研究基盤と企業集積の重要度がやや減少している(p112)。

さらに、ソフトウェア開発企業のうち、6 割を占有する創業 5 年未満の企業(n=8)について見てみると、ソフトウェア開発企業全体に比べて、研究基盤の重要度を著しく増加させる(+5.0 ポイント、約 1.3 倍)一方、都市基盤と都市の多様性の重要度をやや減少させている(p112)。

なお、いずれのケースにおいても、行政支援の重要度が一番高いのに変わりはなく、30%を超える。

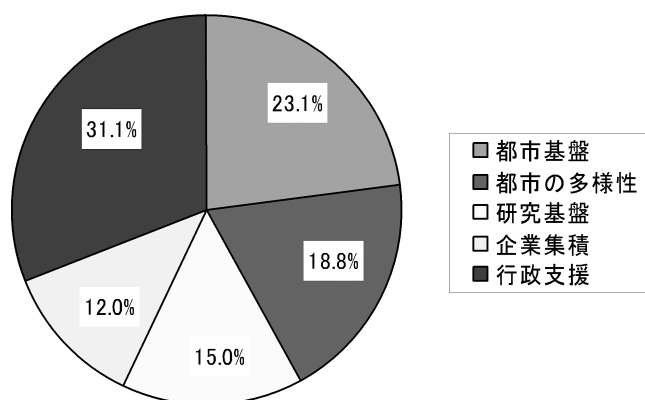


図 5-26 ソフトウェア開発企業(n=13)にみる重要度

〔イノベーション支援企業(n=7)〕

イノベーション支援企業においては、企業集積の重要度が高く、以下、都市基盤、研究基盤、行政支援、都市の多様性と続く。回答者全体の結果に比べて、企業集積の重要度が著しく増えて(12.9 ポイント、約 1.6 倍)おり、一方、行政支援、研究基盤、都市基盤、都市の多様性の順位で重要度を減少させている。これはイノベーション支援企業が、対事業所サービス業であることによるものと考えられる。

さらに、イノベーション支援企業のうち、7 割を占有する創業 5 年未満の企業(n=5)について見てみると、イノベーション支援全体に比べて、都市の多様性の重要度をやや増加させている(+3.0 ポイント、約 1.3 倍)(p112)。

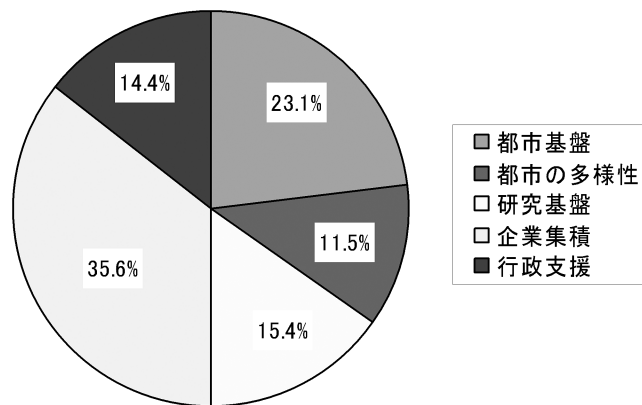


図 5-27 イノベーション支援企業 (n=7) にみる重要度

③分析結果のまとめ

評価基準における重要度の分析結果をまとめると表 5-4 のように整理することができる。前節の一対比較による階層分析の結果と、概ね同様の傾向を得ている。

基盤技術型企業においては、創業間もない時期は「行政支援」を重視するが、業暦の経過とともに、行政支援の重要度は低下し、「企業集積」を重視するようになる。また、経営の常態化に伴い、新たな事業展開への意欲からか、研究基盤や都市の多様性への関心が高まる。

研究開発型企業は、「研究基盤」を重視するといった当然の結果となっている。

ソフトウェア開発企業は、経営基盤が安定していない等の理由により、「行政支援」を重視する。また、他の企業タイプの中では一番に「都市の多様性」を重視する

イノベーション支援企業は、対事業所サービス業でもあるため、「企業集積」を重視する。

表 5-4 評価基準の重要度のまとめ

	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業集積	行政支援
全体	◎	△	○	○	○
基盤技術型企業	○	△	○	◎	○
創業 5 年未満	◎	△	△	↓ △	↓ ◎
創業 30 年以上	○	○	○	↓ ◎	↓ △
研究開発型企業	◎	△	◎	○	○
ソフトウェア開発企業	○	○	○	△	◎
イノベーション支援企業	○	△	○	◎	△

◎≧重要度 25%、○≧同 15%、△＜同 15%

次に、評価基準における重要度の分析結果から、全体効用値に対して降順に、評価基準の組み合わせを表 5-5 に示す。この場合、当然ながら 5 つの評価基準に対して、すべて肯定的であったときが最適な組み合わせとなり、以下、各評価基準の重要度を考慮して、組み合わせが決定されている。

表 5-5 評価基準の組み合わせ(上位 10)

No	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業集積	行政支援	全体効用値
1	○	○	○	○	○	7.9102
2	○	×	○	○	○	7.0664
3	○	○	○	○	×	6.6055
	○	○	×	○	○	6.6055
5	○	○	○	×	○	6.3633
6	×	○	○	○	○	6.0898
7	○	×	○	○	×	5.7617
	○	×	×	○	○	5.7617
9	○	×	○	×	○	5.5195
10	○	○	×	○	×	5.3008

○: 肯定的(例、都市基盤が整備されている)、×: 否定的(例、都市基盤があまり整備されていない)

4. 総括

一対比較による階層分析とコンジョイント分析の結果から、表 5-6 のようにまとめることができる。

基盤技術型企业は「企業集積」を重視し、その中でも業暦が短い企業は「行政支援」を重視する。この場合、工業都市としての集積及び公的セクターのやる気がある「北九州」を適地とする。

研究開発型企业については「研究基盤」を最重要と考え、北九州学術研究都市に一定の評価を与えるものの、総合的に勘案して「福岡」を適地とする。

ソフトウェア開発型企业については「行政支援」を重要視する。4 つの企業タイプの中では最も地域に拘らない業態であり、立地条件が整えば、どこにでも行く身軽さを有していると考えられる。なお、3 都市の中では福岡における都市の多様性を高く評価し、「福岡」を適地としている。

イノベーション支援型企业については「企業業績」を重要視し、「福岡」を適地としている。ここで基盤技術型企业も企業集積を重要としているが、その質は異なるものと考えている。

表 5-6 分析結果のまとめ

	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業集積	行政支援	適地
全体			○	○	○	福岡
基盤技術型企业				◎	○	北九州
研究開発型企业			◎	○	○	福岡
ソフトウェア開発型企业			○		◎	福岡
イノベーション支援型企业			○	◎		福岡

◎: 著しく重要、○: 重要

調査にあたって、一対比較による階層分析において、都市基盤、都市の多様性といった間接的機能が低く評価されてしまったこと、都市の多様性が他の4つの評価基準に対して、分かりにくかったため、評価が低く出てしまったことを最後に付記する。

【注記】

- (1) AHP は、評価基準、代替案を階層構造としてとらえる意思決定手法であり、ピッツバーグ大学の T.L.サーティ教授によって 1977 年に開発された。
- (2) A が B よりよく、B が C よりよいとき、C が A よりよいと回答したならば、その回答は明らかに矛盾している。
- (3) 整合度 = (固有値 - 項目数) / (項目数 - 1)
- (4) 北九州ものづくり光継会といい、30 代、40 代の経営者及び経営幹部等から構成され、勉強会などを開催している。会員 33 社 (2005. 9)

調査票の記入方法

調査票の記入方法について、例示により、以下に説明いたします。

■調査票の Q2～Q6 を回答するにあたって

最も相応しいスポーツクラブを選択する問題を考えてみます。ここでは「施設」「費用」「交通の便」の 3 つの評価基準を挙げ、評価していきます。まず一行目の施設と費用を比べてみて、費用の方が「やや重要」と判断するならば、5 に○をつけてください。次に二行目の施設と交通の便を比べてみて、施設の方が「重要」と判断するならば、2 に○をつけてください。以下同様に、費用と交通の便を比べてみて、費用の方が「とても重要」と判断するならば、1 に○をつけてください。

Q. スポーツクラブを選ぶとき、左右のどちらが、どのくらい重要とお考えですか。

	とても左のほう が重要	左のほう が重要	やや左のほう が重要	どちらとも いえない	やや右のほう が重要	右のほう が重要	とても右のほう が重要	
施設	1	2	3	4	5	6	7	費用
施設	1	2	3	4	5	6	7	交通の便
費用	1	2	3	4	5	6	7	交通の便

■調査票の Q7 を回答するにあたって

次に最も相応しいアパートを選択する問題を考えてみます。ここでは「駅からの時間」「冷暖房の有無」「駐車場の有無」の 3 つを評価基準として挙げ、それぞれの組み合わせについて評価していきます。まず、以下の 3 枚のカードを読みます。カードには各々の評価基準について、条件が示されており、どの組み合わせのカードが、最良なのか、順位を考えます。例えば、カード No.2 の条件の組み合わせが最もよいと判断するならば、順位のところ に 1 を記入します。次点がカード No.3 ならば、同様に順位のところ に 2 を記入します。最後にカード No.1 の順位のところ に 3 を記入します。このようにすべてのカードに順位をつける問題です。なお、同じ順位のカードができないようにしてください。

Q. アパートを選ぶとき、こういった条件のアパートを選択しますか。

カード No.1	順位: 3 位	カード No.2	順位: 1 位	カード No.3	順位: 2 位
駅から 冷暖房 駐車場	20 分 なし あり	駅から 冷暖房 駐車場	5 分 あり あり	駅から 冷暖房 駐車場	5 分 あり なし

Q1. まず最初に、御社についてお尋ねいたします。該当する記号(a～d)に○を1つだけつけてください。

Q1-1. 御社は、どちらかといえば、

- a. 切削や溶接、製缶などにより、部品や製品の加工・組立を行うモノづくり企業である。
- b. 半導体や新素材、バイオなどの先端的な分野について、研究開発を主として行う企業である。
- c. ソフトウェアの開発を行う企業である。(例、ゲームソフト、販売/製造支援ソフト、会計ソフトなど)
- d. イノベーションを支援する企業である。(例、設計受託、人材派遣、弁理士等のコンサルタントなど)
- e. その他()

Q1-2. 創業後、a. 5年未満、 b. 5年以上10年未満、 c. 10年以上30年未満、 d. 30年以上 である。

Q2. 新規事業を行うとき、左右のどちらが、どのくらい重要とお考えですか。

※行ごとに1つだけ、最も相応しいと思われる数字に○をつけてください。

		とても左の ほうが重要	左の ほうが重要	やや左の ほうが重要	どちらとも いえない	やや右の ほうが重要	右の ほうが重要	とても右の ほうが重要	
a	都市基盤	1	2	3	4	5	6	7	都市の多様性
b	都市基盤	1	2	3	4	5	6	7	研究基盤
c	都市基盤	1	2	3	4	5	6	7	企業集積
d	都市基盤	1	2	3	4	5	6	7	行政支援
e	都市の多様性	1	2	3	4	5	6	7	研究基盤
f	都市の多様性	1	2	3	4	5	6	7	企業集積
g	都市の多様性	1	2	3	4	5	6	7	行政支援
h	研究基盤	1	2	3	4	5	6	7	企業集積
i	研究基盤	1	2	3	4	5	6	7	行政支援
j	企業集積	1	2	3	4	5	6	7	行政支援

Q3. 新規事業を行うとき、「都市基盤」の観点からみて、どちらの都市が、どのくらい良いですか。

※行ごとに1つだけ、最も相応しいと思われる数字に○をつけてください。

		とても左の ほうが良い	左の ほうが良い	やや左の ほうが良い	どちらとも いえない	やや右の ほうが良い	右の ほうが良い	とても右の ほうが良い	
a	福岡	1	2	3	4	5	6	7	北九州
b	福岡	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎
c	北九州	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎

Q4. 新規事業を行うとき、「都市の多様性」の観点からみて、どちらの都市が、どのくらい良いですか。
 ※行ごとに1つだけ、最も相応しいと思われる数字に○をつけてください。

		とても左の ほうが良い	左の ほうがよい	やや左の ほうが良い	どちらとも いえない	やや右の ほうが良い	右の ほうがよい	とても右の ほうが良い	
a	福岡	1	2	3	4	5	6	7	北九州
b	福岡	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎
c	北九州	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎

Q5. 新規事業を行うとき、「研究基盤」の観点からみて、どちらの都市が、どのくらい良いですか。
 ※行ごとに1つだけ、最も相応しいと思われる数字に○をつけてください。

		とても左の ほうが良い	左の ほうがよい	やや左の ほうが良い	どちらとも いえない	やや右の ほうが良い	右の ほうがよい	とても右の ほうが良い	
a	福岡	1	2	3	4	5	6	7	北九州
b	福岡	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎
c	北九州	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎

Q6. 新規事業を行うとき、「企業集積」の観点からみて、どちらの都市が、どのくらい良いですか。
 ※行ごとに1つだけ、最も相応しいと思われる数字に○をつけてください。

		とても左の ほうが良い	左の ほうがよい	やや左の ほうが良い	どちらとも いえない	やや右の ほうが良い	右の ほうがよい	とても右の ほうが良い	
a	福岡	1	2	3	4	5	6	7	北九州
b	福岡	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎
c	北九州	1	2	3	4	5	6	7	熊本・大分・長崎

Q7. 新しい事業を行うとき、こういった評価基準の組み合わせの都市を選択しますか。

以下の8つのカードを読んで順位をつけてください。なお、同じ順位のカードができないようにしてください。

カードNo.1	順位： 位	カードNo.2	順位： 位
都市基盤： 整備されている		都市基盤： 整備されている	
都市の多様性： 多様である		都市の多様性： 多様である	
研究基盤： 充実している		研究基盤： 充実している	
企業集積： 十分な集積がある		企業集積： あまり集積がない	
行政支援： 十分な支援がある		行政支援： あまり支援がない	

カードNo.3	順位： 位	カードNo.4	順位： 位
都市基盤： 整備されている		都市基盤： 整備されている	
都市の多様性： 多様でない		都市の多様性： 多様でない	
研究基盤： あまり充実していない		研究基盤： あまり充実していない	
企業集積： 十分な集積がある		企業集積： あまり集積がない	
行政支援： 十分な支援がある		行政支援： あまり支援がない	

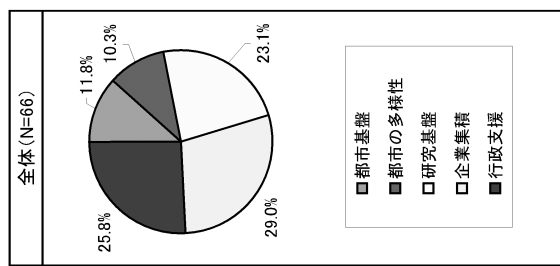
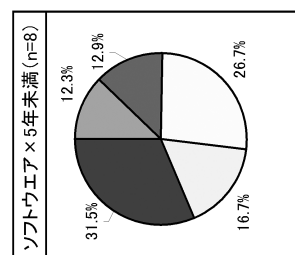
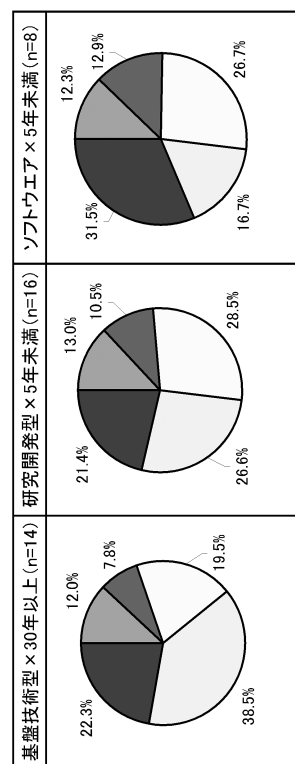
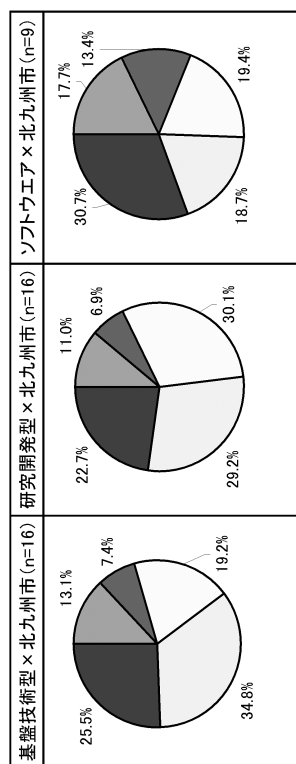
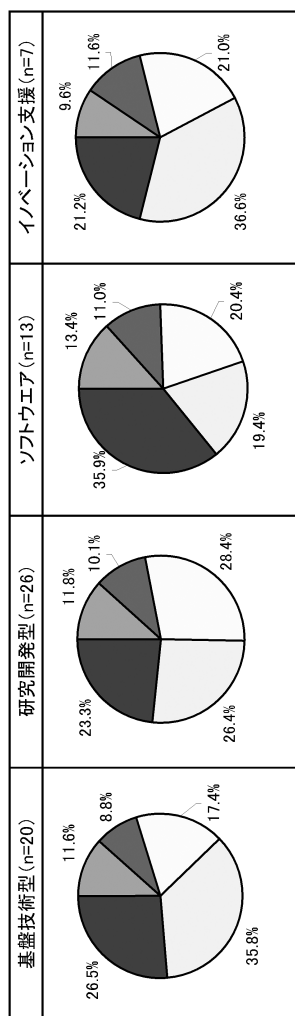
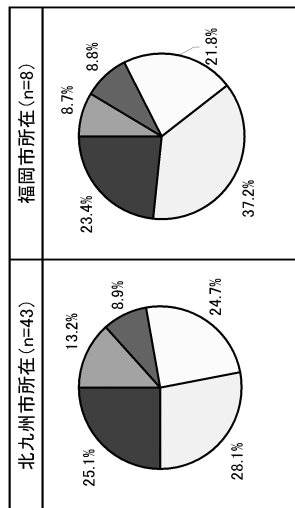
カードNo.5	順位： 位	カードNo.6	順位： 位
都市基盤： あまり整備されていない		都市基盤： あまり整備されていない	
都市の多様性： 多様である		都市の多様性： 多様である	
研究基盤： あまり充実していない		研究基盤： あまり充実していない	
企業集積： 十分な集積がある		企業集積： あまり集積がない	
行政支援： あまり支援がない		行政支援： 十分な支援がある	

カードNo.7	順位： 位	カードNo.8	順位： 位
都市基盤： あまり整備されていない		都市基盤： あまり整備されていない	
都市の多様性： 多様でない		都市の多様性： 多様でない	
研究基盤： 充実している		研究基盤： 充実している	
企業集積： 十分な集積がある		企業集積： あまり集積がない	
行政支援： あまり支援がない		行政支援： 十分な支援がある	

どうも有難うございました。なお、差し支えありませんでしたら、連絡先をご記入ください。

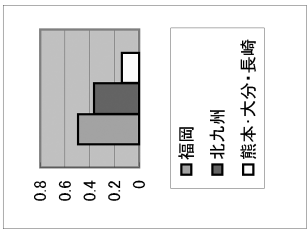
[会社名]
[部署・役職・氏名]
[TEL・FAX]

■ AHP: 属性別及び属性のクロス集計による重要度 (CI閾値=0.15)

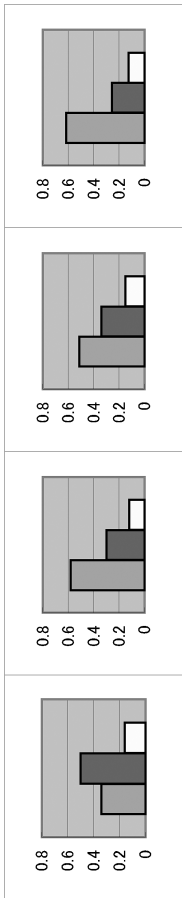


■都市基盤 (CI=0.15)

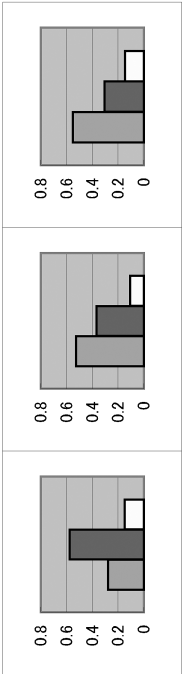
都市基盤	全体 (n=66)
福岡	0.494119366
北九州	0.364629681
熊本・大分・長崎	0.141250954
C.I.	0.002666922



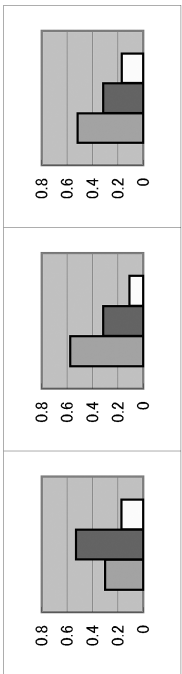
基盤技術型 (n=20)	研究開発型 (n=26)	ソフトウェア (n=13)	イノベーション支援 (n=7)
0.340753803	0.582871382	0.511687473	0.617239335
0.499992975	0.298048866	0.339041663	0.256588982
0.159253222	0.119079752	0.149270863	0.126171683
0.000150691	0.007748607	0.00388695	0.00014161



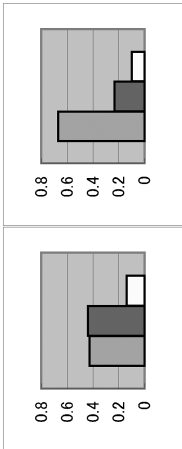
基盤技術型 × 北九州市 (n=16)	研究開発型 × 北九州市 (n=16)	ソフトウェア × 北九州市 (n=9)
0.276556203	0.525707286	0.550795237
0.57585934	0.366676612	0.303463322
0.147584457	0.107616102	0.145741441
0.000872667	0.009293306	0.004082421



基盤技術型 × 30年以上 (n=14)	研究開発型 × 5年未満 (n=16)	ソフトウェア × 5年未満 (n=8)
0.299879193	0.57541084	0.517056565
0.529278105	0.315012747	0.314452135
0.170842702	0.109576414	0.168491299
6.67971E-05	0.019297353	0.000738486

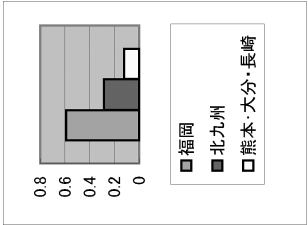


北九州市所在 (n=43)	福岡市所在 (n=8)
0.424758518	0.668431063
0.437835365	0.233760772
0.137406117	0.097808165
0.000671601	0.017564245

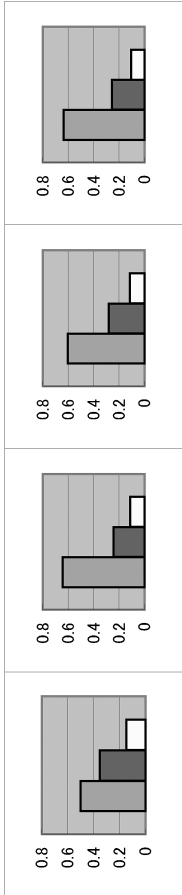


■都市の多様性 (CI=0.15)

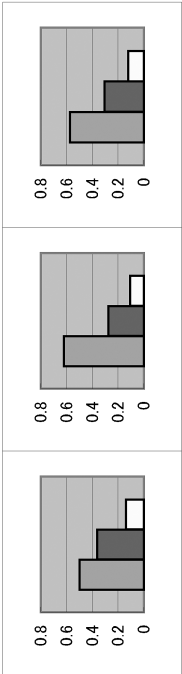
都市の多様性	全体 (n=66)
福岡	0.591373394
北九州	0.285720102
熊本・大分・長崎	0.122906504
C.I.	0.002668922



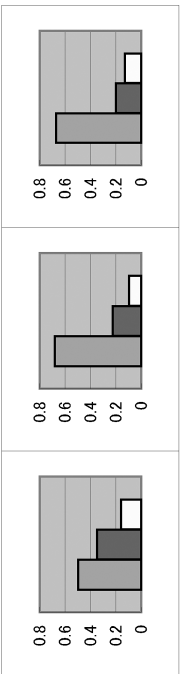
基盤技術型 (n=20)	研究開発型 (n=26)	ソフトウェア (n=13)	イノベーション支援 (n=7)
0.50020106	0.64466478	0.603899687	0.637319472
0.352978745	0.243408279	0.281234167	0.257430075
0.146819295	0.111923243	0.114866146	0.105250453
0.000150691	0.007748607	0.00388695	0.00014161



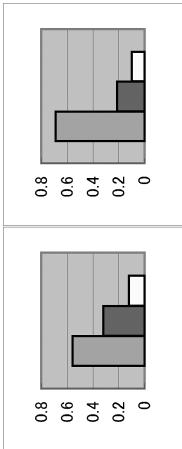
基盤技術型 × 北九州市 (n=16)	研究開発型 × 北九州市 (n=16)	ソフトウェア × 北九州市 (n=9)
0.497444326	0.619534106	0.574010751
0.363331477	0.274575749	0.304856999
0.139224197	0.105890145	0.12113225
0.000872667	0.009293306	0.004082421



基盤技術型 × 30年以上 (n=14)	研究開発型 × 5年未満 (n=16)	ソフトウェア × 5年未満 (n=8)
0.495446909	0.680433014	0.670157534
0.346625321	0.223365022	0.200088803
0.157927769	0.096201965	0.129753663
6.67971E-05	0.019297353	0.000738486

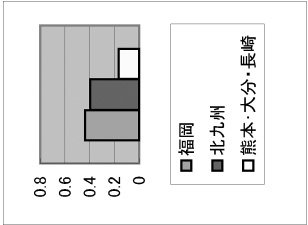


北九州市所在 (n=43)	福岡市所在 (n=8)
0.557130191	0.688483342
0.32035804	0.213559864
0.122511769	0.097956793
0.000671601	0.017564245

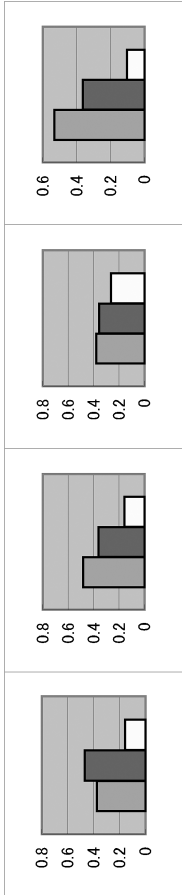


■ 研究基盤 (CI=0.15)

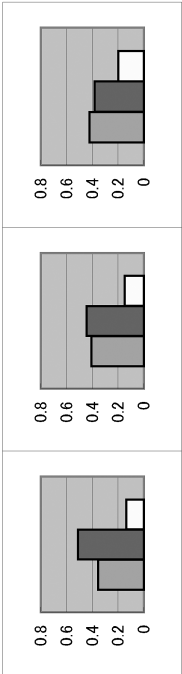
研究基盤	全体 (n=66)
福岡	0.437330089
北九州	0.396493634
熊本・大分・長崎	0.166176277
C.I.	0.002668922



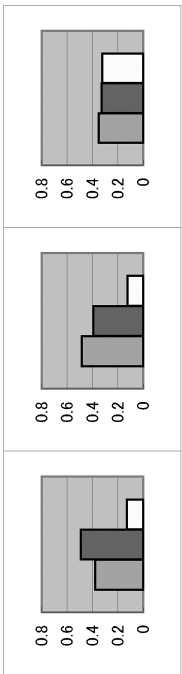
基盤技術型 (n=20)	研究開発型 (n=26)	ソフトウェア (n=13)	イノベーション支援 (n=7)
0.374026462	0.483112993	0.378267955	0.532859424
0.467949216	0.361445678	0.358361081	0.363449726
0.158024323	0.155441328	0.263370964	0.10369095
0.000150691	0.007748607	0.00388695	0.00014161



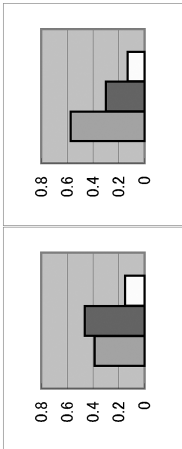
基盤技術型 × 北九州市 (n=16)	研究開発型 × 北九州市 (n=16)	ソフトウェア × 北九州市 (n=9)
0.353864611	0.407420433	0.420304176
0.510590566	0.444349695	0.380753958
0.135544823	0.148229873	0.198941866
0.000872667	0.009293306	0.004082421



基盤技術型 × 30年以上 (n=14)	研究開発型 × 5年未満 (n=16)	ソフトウェア × 5年未満 (n=9)
0.378971757	0.483070291	0.349201157
0.490512311	0.392693053	0.326962266
0.130515931	0.124236655	0.323836577
6.67971E-05	0.019297353	0.000738486

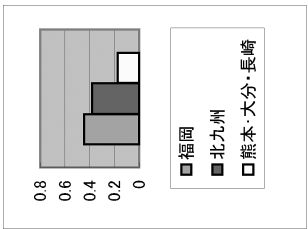


北九州市所在 (n=43)	福岡市所在 (n=8)
0.386591504	0.571885953
0.462567266	0.299016889
0.15084123	0.129087158
0.000671601	0.017564245

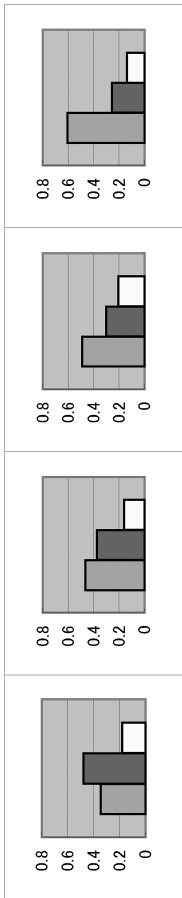


■企業集積 (CI=0.15)

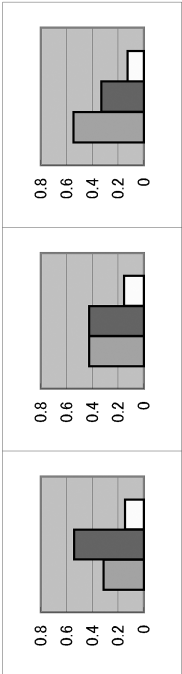
企業集積	全体 (n=66)
福岡	0.445367768
北九州	0.38081902
熊本・大分・長崎	0.173813212
C.I.	0.002668922



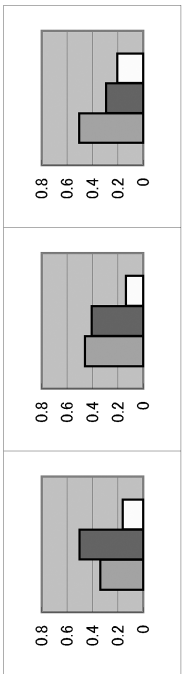
基盤技術型 (n=20)	研究開発型 (n=26)	ソフトウェア (n=13)	イノベーション支援 (n=7)
0.344726068	0.465468804	0.492161184	0.607442921
0.476882413	0.374948686	0.303086571	0.255767954
0.17839152	0.15958251	0.204752245	0.136789125
0.000150691	0.007748607	0.00388695	0.00014161



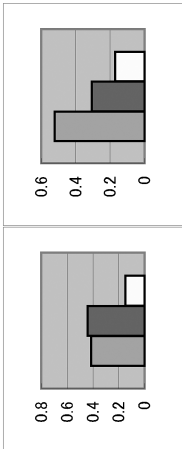
基盤技術型 × 北九州市 (n=16)	研究開発型 × 北九州市 (n=16)	ソフトウェア × 北九州市 (n=9)
0.312234707	0.422744249	0.545655928
0.541256919	0.423521079	0.32939903
0.146508374	0.153734672	0.124945042
0.000872667	0.009293306	0.004082421



基盤技術型 × 30年以上 (n=14)	研究開発型 × 5年未満 (n=16)	ソフトウェア × 5年未満 (n=9)
0.33776435	0.459260508	0.502858391
0.502363907	0.404454468	0.291700336
0.159871743	0.136285024	0.205441273
6.67971E-05	0.019297353	0.000738486

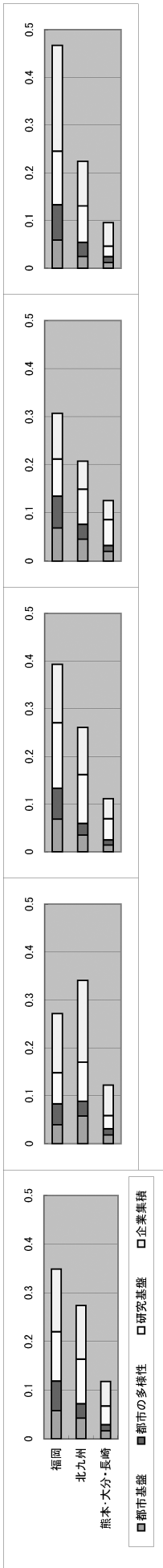


北九州市所在 (n=43)	福岡市所在 (n=8)
0.412587686	0.522832426
0.440504154	0.307255317
0.14690816	0.169912257
0.000671601	0.017564245

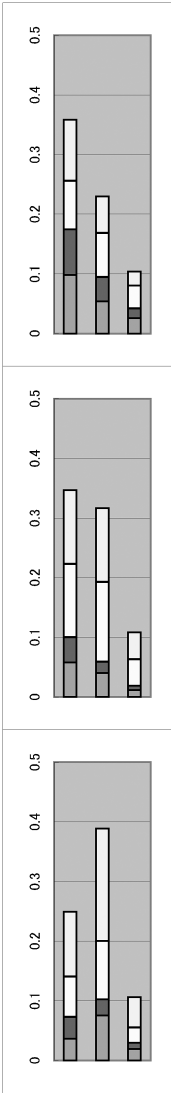


■都市の総合評価

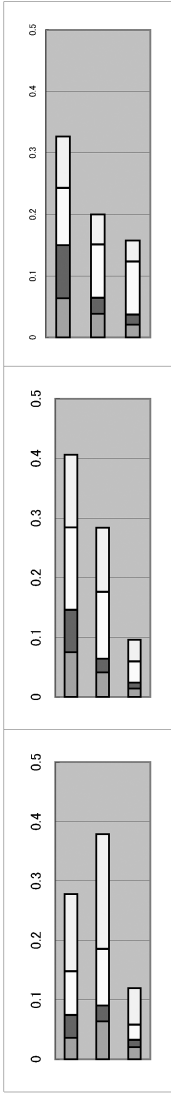
	全体(n=66)			基礎技術型(n=20)			研究開発型(n=26)			ソフトウェア(n=13)			イノベーション支援(n=7)		
	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積
福岡	0.05074342	0.080725379	0.101217976	0.129114149	0.039376597	0.043830878	0.065105779	0.123423316	0.068600494	0.064898205	0.137301608	0.122857636	0.06874283	0.086290014	0.077005352
北九州	0.04285529	0.029339286	0.091766481	0.110401172	0.0577777835	0.030930102	0.08145466	0.170739652	0.035078578	0.024504073	0.102723531	0.098965406	0.043548669	0.030871049	0.072952839
熊本・大分・長崎	0.016601366	0.012620696	0.038460673	0.050389244	0.018402871	0.012865182	0.027506868	0.063870055	0.014014978	0.011267387	0.044176713	0.042120825	0.020053846	0.012608847	0.053615363



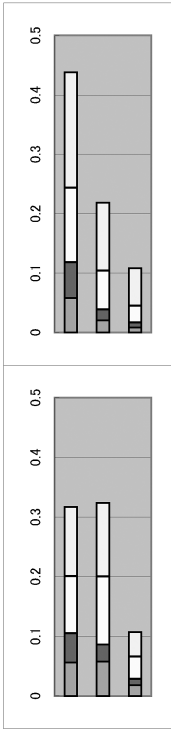
基礎技術型×北九州市(n=16)			研究開発型×北九州市(n=16)			ソフトウェア×北九州市(n=9)		
都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積
0.036272058	0.036931686	0.067838422	0.108636755	0.04261296	0.12362293	0.09776271	0.077181274	0.08155399
0.075527518	0.026974765	0.097883929	0.188321138	0.133891694	0.123850098	0.0533862842	0.04099096	0.073879838
0.019356615	0.010336402	0.025984929	0.050975096	0.011866889	0.007283364	0.0448664706	0.016287398	0.038601812



基礎技術型×30年以上(n=14)			研究開発型×5年未満(n=16)			ソフトウェア×5年未満(n=8)		
都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積
0.035967756	0.038593147	0.073808565	0.12991904	0.074950053	0.071513574	0.137872422	0.121944121	0.063557265
0.063482049	0.027000596	0.095532211	0.193231276	0.041031938	0.023475685	0.11207798	0.10739187	0.086522585
0.020491013	0.012301882	0.025419292	0.061493711	0.014272859	0.010110836	0.035458212	0.036186777	0.025833031



北九州市所在(n=43)			福岡市所在(n=8)		
都市基盤	都市の多様性	企業集積	都市基盤	都市の多様性	企業集積
0.056187978	0.049505898	0.095468513	0.115807625	0.060571761	0.124947151
0.057917811	0.028466618	0.114230677	0.020354314	0.018788886	0.065328856
0.018176379	0.010886244	0.037250141	0.008516476	0.008618096	0.028202809



■コンジョイント分析:属性別の重要度(決定係数=0.9980)

属性	n	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業業績	行政支援
従来型企業	20	23.5%	14.4%	16.4%	29.2%	16.4%
研究開発型企業	26	27.5%	11.1%	25.4%	19.3%	16.7%
ソフトウェア開発企業	13	23.0%	18.7%	15.0%	12.3%	31.0%
サービス業	7	23.1%	11.5%	15.4%	35.6%	14.4%
北九州市	43	24.4%	13.3%	19.7%	22.6%	20.0%
福岡市	8	29.7%	10.2%	18.0%	29.7%	12.5%
福岡市近郊	5	12.8%	11.5%	19.2%	33.3%	23.1%
熊本市	5	41.3%	20.0%	13.3%	9.3%	16.0%
大分市	5	16.1%	19.4%	29.0%	12.9%	22.6%
長崎市	0	-	-	-	-	-
5年未満	34	22.7%	12.8%	22.5%	19.4%	22.7%
5年以上10年未満	7	35.4%	17.7%	15.6%	24.0%	7.3%
10年以上30年未満	7	25.9%	10.2%	13.9%	22.2%	27.8%
30年以上	17	25.1%	14.3%	18.7%	28.7%	13.1%

■コンジョイント分析:属性のクロス集計による重要度(決定係数=0.9980)

〔企業タイプ*所在地〕

	n	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業業績	行政支援
基盤技術型企業-北九州市	16	22.2%	14.5%	14.5%	33.3%	15.4%
基盤技術型企業-福岡市	1	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	11.1%
基盤技術型企業-福岡市近郊	1	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%	28.6%
基盤技術型企業-熊本市	2	25.0%	15.6%	28.1%	9.4%	21.9%
研究開発型企業-北九州市	16	20.9%	8.4%	29.3%	20.9%	20.4%
研究開発型企業-福岡市	4	45.5%	10.6%	16.7%	18.2%	9.1%
研究開発型企業-福岡市近郊	1	12.5%	12.5%	12.5%	50.0%	12.5%
研究開発型企業-熊本市	3	53.5%	23.3%	2.3%	9.3%	11.6%
研究開発型企業-大分市	2	7.1%	14.3%	57.1%	7.1%	14.3%
ソフトウェア開発企業-北九州市	9	27.0%	19.0%	13.9%	9.5%	30.7%
ソフトウェア開発企業-福岡市近郊	2	11.8%	17.6%	23.5%	23.5%	23.5%
ソフトウェア開発企業-大分市	2	12.5%	18.8%	6.3%	12.5%	50.0%
イノベーション支援企業-北九州市	2	57.1%	14.3%	14.3%	10.7%	3.6%
イノベーション支援企業-福岡市	3	4.5%	4.5%	22.7%	50.0%	18.2%
イノベーション支援企業-福岡市近郊	1	0.0%	7.1%	7.1%	57.1%	28.6%
イノベーション支援企業-大分市	1	33.3%	27.8%	5.6%	22.2%	11.1%

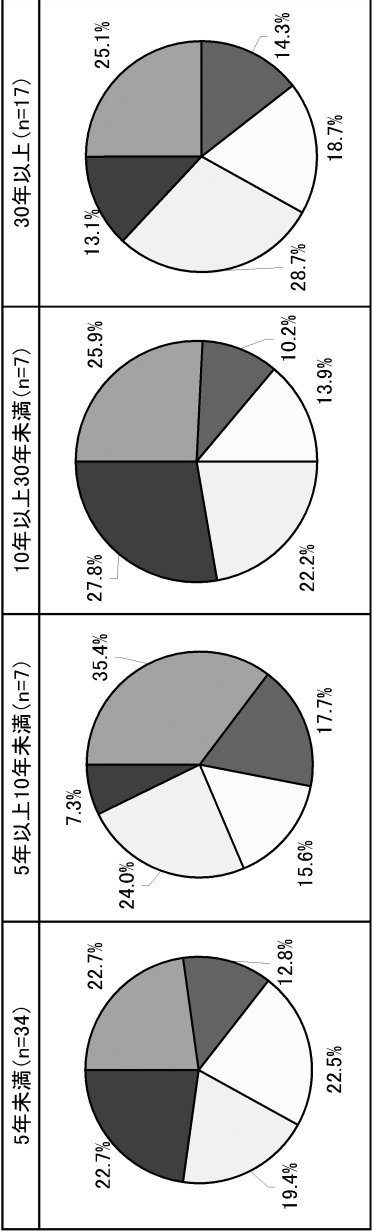
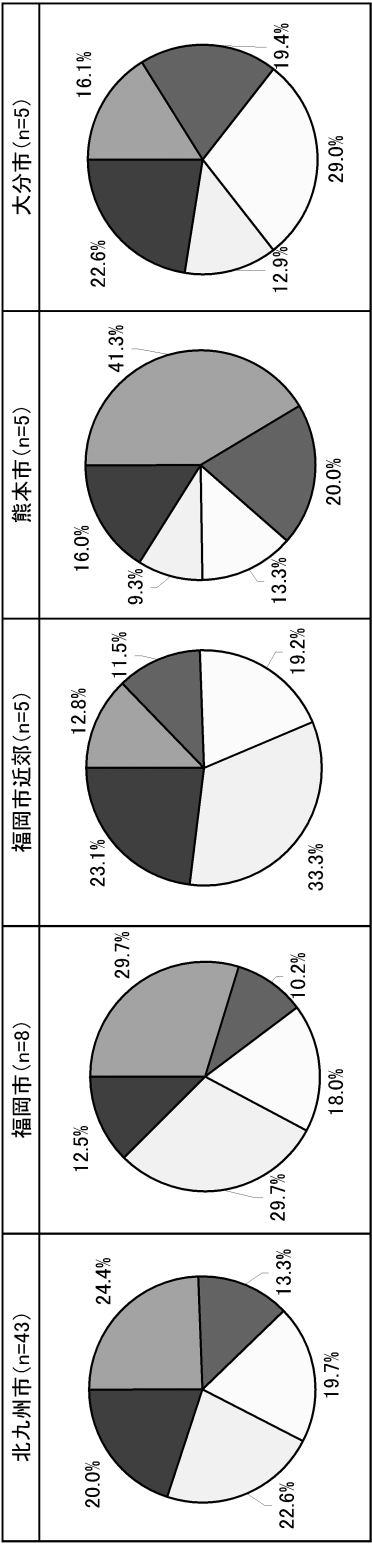
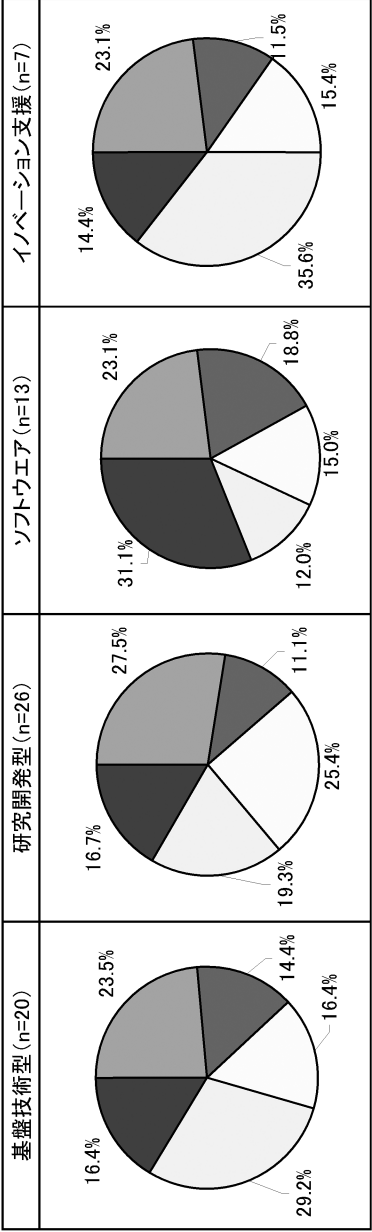
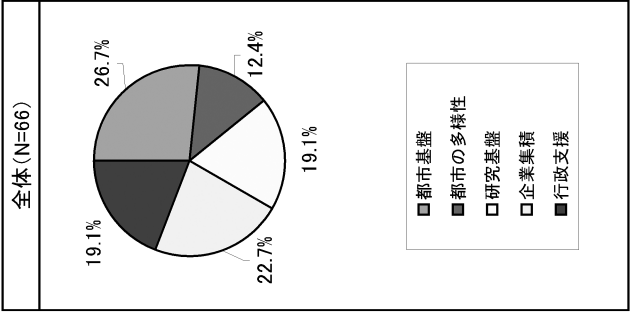
〔企業タイプ*創業年数〕

	n	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業業績	行政支援
基盤技術型企業-5年未満	5	26.3%	10.5%	13.2%	13.2%	36.8%
基盤技術型企業-5年以上10年未満	1	28.6%	14.3%	0.0%	57.1%	0.0%
基盤技術型企業-30年以上	14	22.1%	15.9%	18.8%	33.2%	10.1%
研究開発型企業-5年未満	16	22.5%	10.8%	29.7%	20.3%	16.7%
研究開発型企業-5年以上10年未満	4	39.7%	15.9%	20.6%	19.0%	4.8%
研究開発型企業-10年以上30年未満	4	31.3%	7.8%	20.3%	23.4%	17.2%
研究開発型企業-30年以上	2	31.0%	10.3%	13.8%	3.4%	41.4%
ソフトウェア開発企業-5年未満	8	21.7%	16.7%	20.0%	11.7%	30.0%
ソフトウェア開発企業-5年以上10年未満	2	26.3%	26.3%	10.5%	15.8%	21.1%
ソフトウェア開発企業-10年以上30年未満	2	26.7%	16.7%	3.3%	3.3%	50.0%
イノベーション支援企業-5年未満	5	21.1%	14.5%	14.5%	35.5%	14.5%
イノベーション支援企業-10年以上30年未満	1	0.0%	7.1%	7.1%	57.1%	28.6%
イノベーション支援企業-30年以上	1	57.1%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%

〔創業年数*所在地〕

	n	都市基盤	都市の多様性	研究基盤	企業業績	行政支援
5年未満-北九州市	20	23.7%	12.2%	23.0%	16.5%	24.5%
5年未満-福岡市	5	20.5%	9.0%	19.2%	35.9%	15.4%
5年未満-福岡市近郊	3	13.0%	6.5%	28.3%	28.3%	23.9%
5年未満-熊本市	2	46.7%	23.3%	3.3%	3.3%	23.3%
5年未満-大分市	4	16.1%	19.4%	29.0%	12.9%	22.6%
5年以上10年未満-北九州市	3	27.7%	14.9%	21.3%	27.7%	8.5%
5年以上10年未満-福岡市	2	41.2%	14.7%	14.7%	20.6%	8.8%
5年以上10年未満-熊本市	1	46.7%	33.3%	0.0%	20.0%	0.0%
10年以上30年未満-北九州市	5	25.6%	11.5%	14.1%	16.7%	32.1%
10年以上30年未満-福岡市	1	50.0%	6.3%	18.8%	18.8%	6.3%
10年以上30年未満-福岡市近郊	1	0.0%	7.1%	7.1%	57.1%	28.6%
30年以上-北九州市	15	24.0%	14.9%	17.2%	31.2%	12.7%
30年以上-熊本市	2	33.3%	10.0%	30.0%	10.0%	16.7%

■コンジョイント分析：属性別の重要度（決定係数＝0.9980）



■コンジョイント分析:属性のクロス集計による重要度(決定係数=0.9980) ※計算対象:n≧5のカテゴリ

